

＊ 「江戸城吹上御庭図」に天文台の絵図を発見

少し前のことで恐縮だが、2010年11月8日に武蔵野市文化財保護委員の方々方が研修で国立天文台の文化財相当のものを視察に来られた中に、「私はこんな珍しいものを持っている」と表記の絵図面(写真1)を見せてくださった方がいた。筆者はこのような文化財関係の方の視察の案内もする機会も多いのだが、その場で筆者も見ることがない絵図で天文台が書かれているので非常に貴重なものと思い、ぜひコピーをいただけないかとお願いして、その翌日には郵便で発送して下さり受け取っていた。

しかし、筆者は天文学史に詳しいわけではなく、この絵図面がどれほど重要なものか分からないでいた。年が明けて2011年1月13日に筆者を訪ねて来られた天文学史研究家の佐藤利男氏にこの絵図面を見せたところ、非常に驚かれ、この絵図面は初めて見るものだというのである。そしてこれは非常に貴重な資料だということで驚いた次第である。

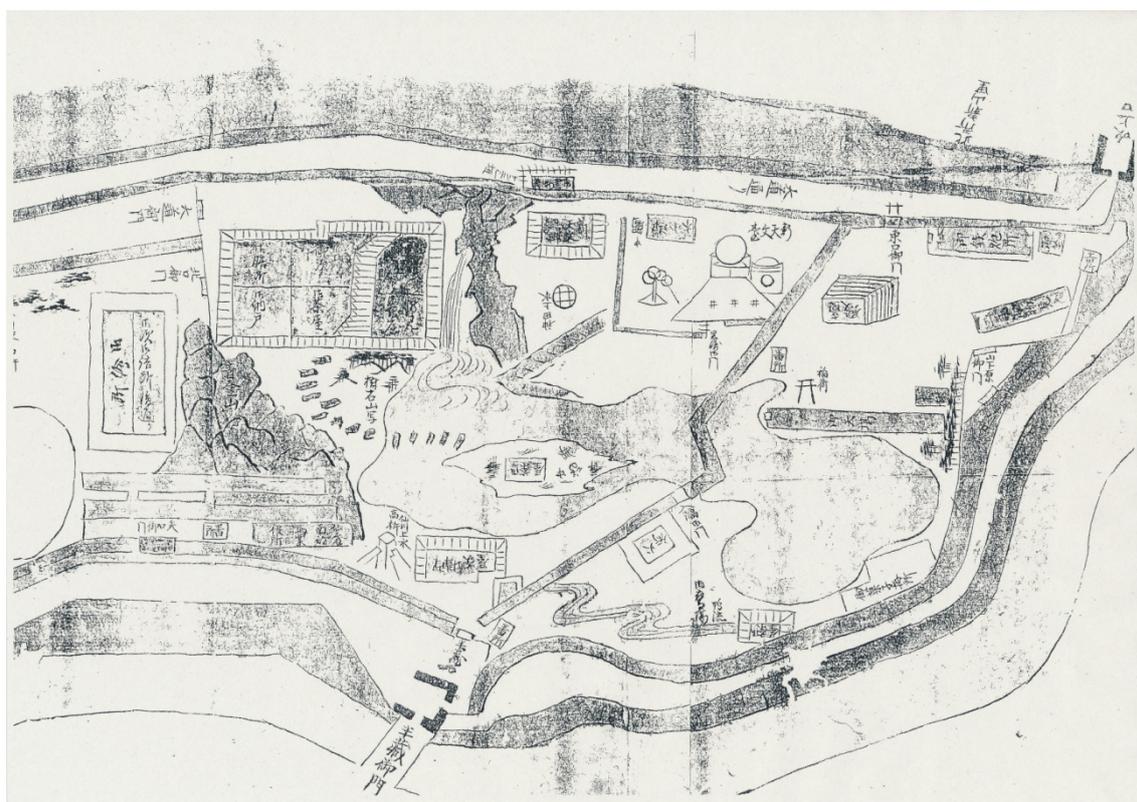


写真1 江戸城吹上御庭図

江戸城の古い絵図面はいくつか出回っているが、この絵図面には「新天文台」と書かれた天文台の絵(写真2)があり、浅草天文台の立体絵図面(写真3)に非常に似ており、高い土塁の上に天文台が置かれ、その上には渾天儀と思われる図があり、またその左にも天文

に関係すると思われる器械の図が書かれており、この天文台の囲いの外、左側には新天文方詰所と読める建物も書かれているのである。

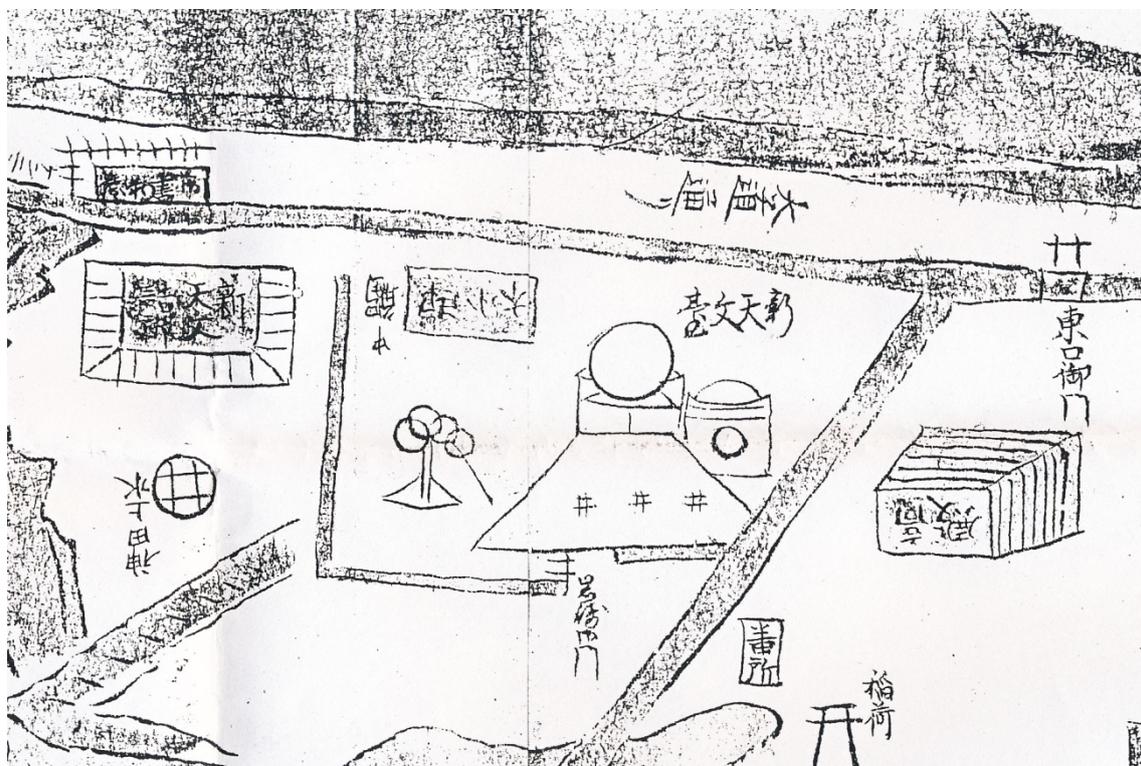


写真2 江戸城吹上御庭図の新天文台部の拡大図

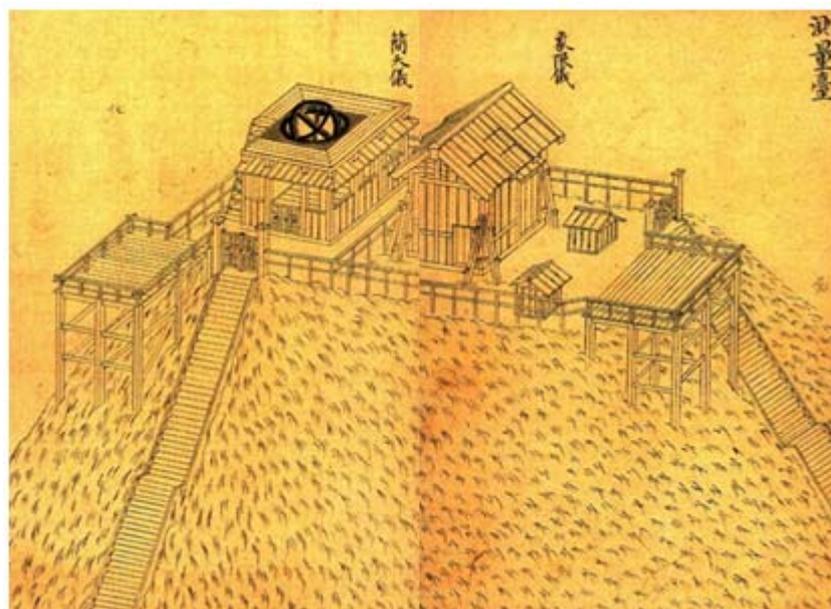


写真3 浅草天文台 天明2年(1782年設立)

佐藤利男氏の話では天文学史研究者もこの江戸城内の天文台の図は誰も見たことがないのである。將軍吉宗の頃、江戸城内に天文台が置かれたという記述はあるそうだが、今まで絵図面を見た天文学史研究者はいなかったようである。

アーカイブ室では、筆者を中心に歴史的に貴重な観測装置、測定装置などハード面を主に発掘し、収集しているが、今回はハード面ではなく、絵図面のコピーであるが貴重なものを戴いた。ありがたいことである。このように活動をしているといろんな方から新しい情報が寄せられ、どんどん知見が増えて行くのである。誠にありがたい。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)